

教科・科目	工業（繊維デザイン）工業技術基礎		単位数	3	単位	履修学年(年次)	1年(年次)
目標	主に繊維デザイン科で学ぶ上で不可欠な基礎造形力を習得するための実習科目として、①絵画 ②デッサン ③コンピューターグラフィックス④立体造形の四つの内容について、班別に4週ずつローテーションして実習する。また、1年次に色彩に関する学習を集中的に行うという観点から2学期にカラーコーディネーションの集中講義を行う。						
使用教材	教科書：「工業技術基礎」（実教出版） 副教材：カラーコーディネーションの基礎、カラーコーディネーター問題集、鉛筆、油彩セット、デザインセット、コンピュータ、スケッチブック、木版、彫刻刀、その他						
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)			
	それぞれの実習における手法や技法に興味関心を持ち、制作活動に意欲的に取り組んでいるかどうか。	与えられた課題から、独自のイメージを展開し、自分の知識技能を駆使し、創意工夫して問題を解決し、カタチに結びつけることができたか。	基本的な知識や技術・技法を組み合わせて、計画的にかつ適切に、イメージを成果として表現しきれたかどうか。	基本的知識や技術・技法を学習を通じてしっかりと自分のものにできたかどうか。			
評価方法	・学習意欲・学習態度 ・出欠状況・完成作品評価・授業への取り組み・制作プロセス ・問題への意欲的なアプローチや理解度・テスト（小テスト、中間・期末考査）・レポート提出 等による総合評価						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	①絵画 風景、静物、人物などをモチーフにした油彩表現等 ②デッサン 木炭デッサン 鉛筆デッサン ③コンピューターグラフィックス フォトショップ&イラストレーター ④立体造形 紙を使った立体表現			①絵画表現の一つの技法である油絵の基礎技法を学び、出題されるテーマにそって作品制作を行う。描写価値を重視し、対象をよく観察し表現する能力を養い総合的な完成度を求める。 ②基本的なカタチ(幾何形体等)や自然物をよく観察し、木炭および鉛筆で的確に描写できるようにし、3つの観点(①構図②固有色・カタチ③全体感・空間性、光と影等のバランス)を意識した制作をし視覚伝達表現の基礎を習得する。 ③CG作品の制作を通して、業界標準の画像処理ソフトの扱い方を学習し、CG表現の基礎を習得する。 ④ペーパー Sculpture や立体構成など、立体表現の基礎を習得する。			
2	カラーコーディネーションの基礎(講義) ①色の性質 ②色彩心理 ③色彩表示、色彩伝達 ④配色と色彩調和 ⑤光の性質あ ⑥色の見える仕組み ⑦色の測定 ⑧混色と色再現 ⑨色と文化			それぞれの項目を集中的に学習することでモノづくりをする上で必要とされる、人や環境に配慮した色彩計画をたてるための知識と技術を身につけることをねらいとしている。			
3	①絵画 風景、静物、人物などをモチーフにした油彩表現等 ②デッサン 木炭デッサン 鉛筆デッサン ③コンピューターグラフィックス フォトショップ&イラストレーター ④立体造形 紙を使った立体表現			①絵画表現の一つの技法である油絵の基礎技法を学び、出題されるテーマにそって作品制作を行う。描写価値を重視し、対象をよく観察し表現する能力を養い総合的な完成度を求める。 ②基本的なカタチ(幾何形体等)や自然物をよく観察し、木炭および鉛筆で的確に描写できるようにし、3つの観点(①構図②固有色・カタチ③全体感・空間性、光と影等のバランス)を意識した制作をし視覚伝達表現の基礎を習得する。 ③CG作品の制作を通して、業界標準の画像処理ソフトの扱い方を学習し、CG表現の基礎を習得する。 ④ペーパー Sculpture や立体構成など、立体表現の基礎を習得する。			
学習上の留意点	主には工業専門科目(繊維デザイン)の「デザイン技術」「染色デザイン」「デザイン製図」「デザイン史」「繊維染色技術」などの科目と連携し講義や実技を通して身につけていく内容である。 2年生、3年生の繊維デザイン実習へと発展していく基礎となる。						

教科・科目	工業（繊維デザイン）・課題研究		単位数	4 単位	履修学年(年次)	3年(年次)
目標	1. 2年次に学習してきた内容を再確認し、各自が最も興味、関心を抱いた表現技法を選択し、3年間の学習の集大成としての卒業制作に取り組む。 実習（4単位）と連携し合計8単位を使って、4月より卒業制作に取りかかることとする。					
使用教材	各自が選択した表現技法に必要な材料、画材、素材、道具					
評価の観点・評価標準	(関心・意欲・態度) 卒業制作に向けてそれぞれの実習における手法や技法に興味関心を持ち、制作活動に意欲的に取り組んでいるかどうか。	(思考・判断) 自ら課題設定をし、独自のイメージを展開し、自分の知識技能を駆使し、創意工夫して問題を解決し、カタチに結びつけることができたか。	(技能・表現) 基本的な知識や技術・技法を組み合わせ、計画的にかつ適切に、イメージを成果として表現しきれたかどうか。	(知識・理解) 基本的知識や技術・技法を学習し、制作や展覧会を通じてしっかりと自分のものにできたかどうか。		
評価方法	・学習意欲・学習態度・出欠状況・授業への取り組み・制作プロセス・卒業制作展でのプレゼンテーションおよび展示作品評価 ・問題への意欲的なアプローチや理解度・レポート提出等による総合評価					
学期	学習内容			学習のねらい		
1	①平面表現（油彩） ②立体表現（粘土） ③テキスタイル表現 ④コンピュータグラフィックス 卒業制作ガイダンス 卒業制作テーマ研究 卒業制作テーマプレゼンテーション			これまで学習してきた基礎的な表現技法を使い、内容を発展させ、作品制作に取り組む。 実習を通じて素材研究、技法研究を進め卒業制作に向けての足がかりとする。 実習ローテーションを行いながら卒業制作のテーマ研究を行い、決定したテーマについてプレゼンテーションを行い、課題設定についての評価を受ける。またクラス全員の前でプレゼンテーションをすることで全員が各自の取り組み内容を把握することができる。		
2	1学期のテーマプレゼンテーションをもとに、それぞれの目的・イメージに合わせ、大きく①～⑥の分野にわかれて卒業制作に取り組む。 ①平面表現 素材、技法は問わない。 ②立体表現 素材、技法は問わない。 ③コンピュータグラフィックス コンピュータによるグラフィックデザイン表現等 ④染色・テキスタイル表現 染色技法、縫製技術等を駆使し、オリジナルデザインによるテキスタイル製品の制作 ⑥ミクストメディア表現 いずれにも属さない複合メディア型表現、インスタレーション等			・1学期末から夏休みにかけてテーマ研究を深め、必要な素材などの準備にかかり、2学期のスタートとともに制作をスタートさせる。 ・独自の感性を働かせ、スタイルを問わず、それぞれの目的・イメージに合わせ、自由に素材選択、表現させ、独創性ある作品づくりを目指す。 ・卒業制作展に出品をするため、観覧者の立場も考慮したプレゼンテーション(展示方法、作品紹介も兼ねたキャプション等)を考える。 ・卒業制作を通じて自ら課題を設定し、自ら考え、自ら表現し、自ら伝えるという問題認識、問題解決、自己表現といった人間として重要な能力の向上を図り、自己実現をめざす。		
3	*卒業制作展開催 ・会場への作品搬入、展示、会場当番、搬出、清掃 ・公開鑑賞講評会において一人ずつプレゼンテーションを行い教師より講評をうける。 ・卒業制作での取り組みを振り返り、総括レポートを作成し提出する。			*卒業制作展開催 ・搬入、展示、会場当番、搬出などの作業を通して展覧会のあり方を体験的に学習する。 ・公開鑑賞講評会でのプレゼンテーションを通して自分が作品を通じて表現したかったことを自分の言葉で人に伝えるということの意味と、自分の作品に対する人の意見を聞くということの大切さを体験的に学習する。 ・卒業制作全体を通して得られた成果と今後の課題を考え、レポートにまとめ提出する。		
学習上の留意点	主には工業専門科目（繊維デザイン）の「デザイン技術」「染色デザイン」「デザイン製図」「デザイン史」「繊維染色技術」などの科目と連携し講義や実技を通して身につけていく内容である。					

教科・科目	工業（繊維デザイン）・課題研究		単位数	4 単位	履修学年(年次)	3年(年次)
目標	1. 2年次に学習してきた内容を再確認し、各自が最も興味、関心を抱いた表現技法を選択し、3年間の学習の集大成としての卒業制作に取り組む。 実習（4単位）と連携し合計8単位を使って、4月より卒業制作に取りかかることとする。					
使用教材	各自が選択した表現技法に必要な材料、画材、素材、道具					
評価の観点・評価標準	(関心・意欲・態度) 卒業制作に向けてそれぞれの実習における手法や技法に興味関心を持ち、制作活動に意欲的に取り組んでいるかどうか。	(思考・判断) 自ら課題設定をし、独自のイメージを展開し、自分の知識技能を駆使し、創意工夫して問題を解決し、カタチに結びつけることができたか。	(技能・表現) 基本的な知識や技術・技法を組み合わせ、計画的にかつ適切に、イメージを成果として表現しきれたかどうか。	(知識・理解) 基本的知識や技術・技法を学習し、制作や展覧会を通じてしっかりと自分のものにできたかどうか。		
評価方法	・学習意欲・学習態度・出欠状況・授業への取り組み・制作プロセス・卒業制作展でのプレゼンテーションおよび展示作品評価 ・問題への意欲的なアプローチや理解度・レポート提出等による総合評価					
学期	学習内容			学習のねらい		
1	①平面表現（油彩） ②立体表現（粘土） ③テキスタイル表現 ④コンピュータグラフィックス 卒業制作ガイダンス 卒業制作テーマ研究 卒業制作テーマプレゼンテーション			これまでに学習してきた基礎的な表現技法を使い、内容を発展させ、作品制作に取り組む。 実習を通じて素材研究、技法研究を進め卒業制作に向けての足がかりとする。 実習ローテーションを行いながら卒業制作のテーマ研究を行い、決定したテーマについてプレゼンテーションを行い、課題設定についての評価を受ける。またクラス全員の前でプレゼンテーションをすることで全員が各自の取り組み内容を把握することができる。		
2	1学期のテーマプレゼンテーションをもとに、それぞれの目的・イメージに合わせ、大きく①～⑥の分野にわかれて卒業制作に取り組む。 ①平面表現 素材、技法は問わない。 ②立体表現 素材、技法は問わない。 ③コンピュータグラフィックス コンピュータによるグラフィックデザイン表現等 ④染色・テキスタイル表現 染色技法、縫製技術等を駆使し、オリジナルデザインによるテキスタイル製品の制作 ⑥ミクストメディア表現 いずれにも属さない複合メディア型表現、インスタレーション等			・1学期末から夏休みにかけてテーマ研究を深め、必要な素材などの準備にかかり、2学期のスタートとともに制作をスタートさせる。 ・独自の感性を働かせ、スタイルを問わず、それぞれの目的・イメージに合わせ、自由に素材選択、表現させ、独創性ある作品づくりを目指す。 ・卒業制作展に出品をするため、観覧者の立場も考慮したプレゼンテーション(展示方法、作品紹介も兼ねたキャプション等)を考える。 ・卒業制作を通じて自ら課題を設定し、自ら考え、自ら表現し、自ら伝えるという問題認識、問題解決、自己表現といった人間として重要な能力の向上を図り、自己実現をめざす。		
3	*卒業制作展開催 ・会場への作品搬入、展示、会場当番、搬出、清掃 ・公開鑑賞講評会において一人ずつプレゼンテーションを行い教師より講評をうける。 ・卒業制作での取り組みを振り返り、総括レポートを作成し提出する。			*卒業制作展開催 ・搬入、展示、会場当番、搬出などの作業を通して展覧会のあり方を体験的に学習する。 ・公開鑑賞講評会でのプレゼンテーションを通して自分が作品を通じて表現したかったことを自分の言葉で人に伝えるということの意味と、自分の作品に対する人の意見を聞くということの大切さを体験的に学習する。 ・卒業制作全体を通して得られた成果と今後の課題を考え、レポートにまとめ提出する。		
学習上の留意点	主には工業専門科目（繊維デザイン）の「デザイン技術」「染色デザイン」「デザイン製図」「デザイン史」「繊維染色技術」などの科目と連携し講義や実技を通して身につけていく内容である。					

教科・科目	工業（繊維デザイン）・実習		単位数	4	単位	履修学年(年次)	3年(年次)
目標	1, 2年次に学習してきた内容を再確認し、各自が最も興味、関心を抱いた表現技法を選択し、3年間の学習の集大成としての卒業制作に取り組む。 課題研究（4単位）と連携し合計8単位を使って、4月より卒業制作に取りかかることとする。						
使用教材	各自が選択した表現技法に必要な材料、画材、素材、道具						
評価の観点・評価標準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)			
	卒業制作に向けてそれぞれの実習における手法や技法に興味関心を持ち、制作活動に意欲的に取り組んでいるかどうか。	自ら課題設定をし、独自のイメージを展開し、自分の知識技能を駆使し、創意工夫して問題を解決し、カタチに結びつけることができたか。	基本的な知識や技術・技法を組み合わせ、計画的にかつ適切に、イメージを成果として表現しきれたかどうか。	基本的知識や技術・技法を学習し、制作や展覧会を通じてしっかり自分のものにできたかどうか。			
評価方法	・学習意欲・学習態度・出欠状況・授業への取り組み・制作プロセス・卒業制作展でのプレゼンテーションおよび展示作品評価 ・問題への意欲的なアプローチや理解度・レポート提出等による総合評価						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	①平面表現（油彩） ②立体表現（粘土） ③テキスタイル表現 ④コンピュータグラフィックス 卒業制作ガイダンス 卒業制作テーマ研究 卒業制作テーマプレゼンテーション			これまで学習してきた基礎的な表現技法を使い、内容を発展させ、作品制作に取り組む。 実習を通じて素材研究、技法研究を進め卒業制作に向けての足がかりとする。 実習ローテーションを行いながら卒業制作のテーマ研究を行い、決定したテーマについてプレゼンテーションを行い、課題設定についての評価を受ける。またクラス全員の前でプレゼンテーションをすることで全員が各自の取り組み内容を把握することができる。			
2	1学期のテーマプレゼンテーションをもとに、それぞれの目的・イメージに合わせ、大きく①～⑥の分野にわかれて卒業制作に取り組む。 ①平面表現 素材、技法は問わない。 ②立体表現 素材、技法は問わない。 ③コンピュータグラフィックス コンピュータによるグラフィックデザイン表現等 ④染色・テキスタイル表現 染色技法、縫製技術等を駆使し、オリジナルデザインによるテキスタイル製品の制作 ⑥ミクストメディア表現 いずれにも属さない複合メディア型表現、インスタレーション等			・1学期末から夏休みにかけてテーマ研究を深め、必要な素材などの準備にかかり、2学期のスタートとともに制作をスタートさせる。 ・独自の感性を働かせ、スタイルを問わず、それぞれの目的・イメージにあわせ、自由に素材選択、表現させ、独創性ある作品づくりを目指す。 ・卒業制作展に出品をするため、観覧者の立場も考慮したプレゼンテーション(展示方法、作品紹介も兼ねたキャプション等)を考える。 ・卒業制作を通じて自ら課題を設定し、自ら考え、自ら表現し、自ら伝えるという問題認識、問題解決、自己表現といった人間として重要な能力の向上を図り、自己実現をめざす。			
3	*卒業制作展開催 ・会場への作品搬入、展示、会場当番、搬出、清掃 ・公開鑑賞講評会において一人ずつプレゼンテーションを行い教師より講評をうける。 ・卒業制作での取り組みを振り返り、総括レポートを作成し提出する。			*卒業制作展開催 ・搬入、展示、会場当番、搬出などの作業を通して展覧会のあり方を体験的に学習する。 ・公開鑑賞講評会でのプレゼンテーションを通して自分が作品を通じて表現したかったことを自分の言葉で人に伝えるということの意味と、自分の作品に対する人の意見を聞くということの大切さを体験的に学習する。 ・卒業制作全体を通して得られた成果と今後の課題を考え、レ総括レポートにまとめ提出する。			
学習上の留意点	主には工業専門科目（繊維デザイン）の「デザイン技術」「染色デザイン」「デザイン製図」「デザイン史」「繊維染色技術」などの科目と連携し講義や実技を通して身につけていく内容である。						

教科・科目	工業（繊維デザイン）・製図	単位数	2単位	履修学年(年次) 2年(年次)
目標	基礎的な図面の書き方を身に付け、それらをデザインの計画や表現に活かせるようになることを目標とする。			
使用教材	教科書「デザイン製図」（実教出版）			
評価の観点・評価基準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現)	(技能)	(知識・理解)
	デザインに関する諸課題に関心をもち、製図・図面表現を用いて、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	デザインに関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な製図・図面表現の知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	製図・図面表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、デザインを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	製図・図面表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、より良い暮らしをつくるデザインの意義や役割を理解している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（一学期中間） ・提出物（作品等）審査 ・学習意欲・態度 ・出欠 以上による総合評価			
学期	学習内容	学習のねらい		
1	<ul style="list-style-type: none"> ●レタリング演習 ■第1章 総論 <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン製図について ■第2章 製図の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な図面の表現 ・透視図法 ■スケッチアップ（建築3Dソフト）の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なデザイン分野の表現に必要なレタリングの知識を習得する。 ・ものづくり全般における製図・図面表現の役割を理解する。 ・身近なデザインの課題演習を通して、図面の見方・書き方の基礎を学ぶ。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ■第3章 製図の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・図面表現を用いた課題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・パッケージ・空間デザインに関わる分野を中心とした課題演習を行い基礎的な図面の書き方を習得する。 ・習得した技能を活かして、デザインを計画・表現できるようになる。 ・寸法や縮尺について学ぶとともに、人が使いやすい空間のカタチや大きさがあることを知り、デザインに反映できる力を身につける。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ■第3章 製図の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・図面表現を用いた課題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した技能を活かしてデザインを計画・表現し、自分たちの暮らしをより良いものに改善する提案ができる力を身につける。 		
学習上の留意点	授業に欠席せず、課題の意図を理解して真剣に授業に取り組み、提出物の期限を守ること。			

教科・科目	工業(繊維デザイン)・情報技術基礎	単位数	2単位	履修学年(年次)	1年(年次)
目標	社会における情報化の進展およびコンピュータの役割を理解するとともに、コンピュータに関する基礎的技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を養う。				
使用教材	教科書「情報技術基礎」(実教出版) コンピュータ				
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)	
	問題解決のため、情報の検索を様々な方法を用いて行い、コンピュータの多様な機能を活用しようとしている。	問題解決のための効率的な手段を選択できる。情報発信にあたり、受け手の負担や著作権等を尊重した情報発信ができる。	得られた情報を目的別に統合し、多様な解釈をさける工夫のなされた情報の伝達・表現ができる。必要な情報を、効率よく収集できる。	ソフトウェアの基本的な操作ができる。情報のデジタル化が、情報再利用の可能性を向上させたことを理解し、また、処理の信頼性・効率性を向上させたことを理解できる。	
評価方法	事前評価 生徒の実態に即した指導、実技の際の班編成を行うための資料として。 リテラシーチェックシート アンケート調査 プレテスト 既習事項のチェックシート 学習成果の評価 生徒へのフィードバックを視点に入れた評価。 教員による観察や面接による評価 レポートの提出による評価 生徒自身による自己評価 生徒相互による討論や相互評価 定期テストによる評価				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	第1章 産業社会と情報技術 第2章 コンピュータの基礎		情報化の進展と産業社会、情報化社会への対応について理解する。 情報倫理についても理解を深める。		
2	第3章 コンピュータシステム 第4章 プログラミングの基礎		コンピュータの利用方法を学ぶ。特に第4章については、プログラミングの演習を主体とし、グラフィックも一部取り扱える様になる。		
3	第5章 コンピュータ制御の基礎 第6章 情報技術の活用		ハードウェアの構成や基本的な動作について理解を深める。 マルチメディアとコンピュータ通信に関しては、ホームページの作成についても一部実技を通じて理解を深める。		
学習上の留意点	単に一科目としてとらえるのではなく、学習を終えた後にも、工業の中のとくに実習の「ものづくり」をする際の道具のひとつとして、情報機器を身近な道具として気軽に利用・活用していく姿勢を養えるとよい。 実技を評価する際には、その成果のみでなく過程における生徒の努力や工夫についても評価する				

教科・科目	工業(繊維デザイン) 繊維・染織技術	単位数	2単位	履修学年(年次)	1年(年次)
目標	繊維製品の製造技術と染色技術に関する基礎的な知識と技術を染色に重点を置きながら習得し、実際に活用する能力と態度を身につける。				
使用教材	テキスタイル製品(実教出版)				
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)	
	テキスタイル素材及びその染色加工に興味関心を持ち、意欲的に授業に取り組むことができるか。	染色技術を理解することにより、身の回りのテキスタイル製品の取り扱いを判断することができるか。	授業中の発言を通して学習した内容をわかりやすく表現できるか。	定期考査を通じて、学習内容の理解を判断する。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査(中間・期末・学年末) ・学習意欲・態度 ・出欠 以上による総合評価				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	第1章 繊維高分子		<ul style="list-style-type: none"> ・繊維素材を学習し、身近な生活空間でどのように利用されているかを知る 		
2	第2章 糸		<ul style="list-style-type: none"> ・糸の構造、その製造方法を理解する。 		
3	第3章 布		<ul style="list-style-type: none"> ・織物の組織、製造方法を理解する。 		
学習上の留意点	休まず、意欲的に授業に取り組むこと。				

教科・科目	工業(繊維デザイン)・染織デザイン	単位数	2 単位	履修学年(年次) 2年(年次)
目標	構成原理と色彩理論の上で繊維製品等を造形性、審美性の立場から理解することができる。			
使用教材	教科書「染織デザイン」(実教出版) デザインセット(デザイン用具一式)			
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)
	表現することの楽しさ喜びを制作に生かすことができたか。画材の可能性を追求することができたか。	部分と全体の関係を理解しているか。豊かで斬新な発想ができたか。	素材の特長を生かして表現されているか。造形的なものを見方を身につけることができたか。	色彩、造形基礎、映像、織物の系統だった知識を理解し活用できているか。人とモノとの関係性を理解し人間のよりよい生活のためのデザインの意味を理解しているか。
評価方法	行動観察 作品評価 プレゼンテーション			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	A班 映像(動画・アニメーション)理論	B班 松阪木綿の制作(歴史・製造法の理解)	A班 動画撮影と編集ソフトの理解を図る。	
	B班 手織り技法の学習を通して今後テキスタイル作品を制作を希望する生徒の表現力と技術の向上を図る。			
2	A班 アニメーションの作成	B班 手織り技法の学習 先染め、経糸巻き返し、整経、引き込み等 各種イベントに参加	A班 実際にアニメーションを作ることによりさらに理解を深める。	
	B班 手織り技法の学習を通して今後テキスタイル作品を制作を希望する生徒の表現力と技術の向上を図る。 松阪木綿フェスティバルに参加企画することにより、イベントのプランニングを学習。			
3	A班 平面デザイン表現 イメージ表現とテキスタイル 課題に基づいた平面作品等の制作	B班 手織り技法の学習 製織	A班 映像作品の制作を通して1、2学期に学習した表現技法等を実際の作品にフィードバックし、より高い表現力を身につけることをねらいとしている。	
	B班 手織り技法の学習を通して今後テキスタイル作品を制作を希望する生徒の表現力と技術の向上を図る。 製織技術の向上を図るとともに経糸切れなどアクシデントに対応できるような力をつける。			
学習上の留意点	主には工業専門科目(繊維デザイン)の「デザイン技術」「工業基礎」「実習」などの科目と連携し講義や実技を通して身につけていく内容である。			

教科・科目	工業(繊維デザイン)・染織デザイン	単位数	2 単位	履修学年(年次)	2年(年次)
目標	構成原理と色彩理論の上で繊維製品等を造形性、審美性の立場から理解することができる。				
使用教材	教科書「染織デザイン」(実教出版) デザインセット(デザイン用具一式)				
評価の観点・評価規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)	
	表現することの楽しさ喜びを制作に生かすことができたか。画材の可能性を追求することができたか。	部分と全体の関係を理解しているか。豊かで斬新な発想ができたか。	素材の特長を生かして表現されているか。造形的なものを見方を身につけることができたか。	色彩、造形基礎、映像、織物の系統だった知識を理解し活用できているか。人とモノとの関係性を理解し人間のよりよい生活のためのデザインの意味を理解しているか。	
評価方法	行動観察 作品評価 プレゼンテーション				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	A班 映像(動画・アニメーション)理論の確認 B班 2年次に整経した織物を1反織り上げる		A班 動画撮影と編集ソフトの理解を図る。2年次よりもさらに難易度の高い操作を覚える。 B班 手織り技法の学習を通して今後テキスタイル作品を制作を希望する生徒の表現力と技術の向上を図る。		
2	A班 アニメーションの作成 B班 手織り技法の学習 先染め、経糸巻き返し、整経、引き込み等各種イベントに参加		A班 実際にアニメーションを作り発表することによりさらに理解を深める。 B班 織り上げた松阪木綿で着物、洋服、小物等に仕上げることにより松阪木綿の活用を考える。松阪木綿フェスティバルに参加し、プランニング等の企画立案する力を身につける。		
3	A班 映像デザイン表現 イメージ表現と課題に基づいた映像作品等の成果発表 B班 手織り技法の学習 2学期に制作した作品の発表		A班 映像作品の発表を通して1、2学期に学習した表現技法等を実際の作品にフィードバックし、より高い表現力を身につけることをねらいとしている。 B班 手織り製品の発表を通して今後テキスタイル作品を制作を希望する生徒の表現力と技術の向上を図る。		
学習上の留意点	主には工業専門科目(繊維デザイン)の「デザイン技術」「工業基礎」「実習」などの科目と連携し講義や実技を通して身につけていく内容である。				

教科・科目	工業(繊維デザイン)・デザイン技術	単位数	3単位	履修学年(年次)	1年(年次)
目標	デザインに関する基礎的な知識と技能を習得し、課題による作品づくり等の創造シーンに応用できる能力と態度を身につける。				
使用教材	教科書「デザイン技術(海文堂)」、副教材「カラーコーディネーションの基礎(中央経済社)」、「カラーコーディネーター問題集(中央経済社)」 デザインセット(デザイン画材用具一式)				
評価の観点・評価標準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)	
	デザイン＝「より良い生活のための提案」という観点から、色彩や形体が身近な環境に果たす役割や重要性に関心をもって、課題に生かそうとできる。	課題等のテーマから自身が発想した事物を色彩や形体、材料により、第三者、環境にどう印象や性格等を伝達できるか、自身の感覚、考えをもって、目的にあわせた構想ができる。	課題等のテーマ、目的や構想にあわせ、材料や用具の生かし方を工夫し、リズムやバランス、変化と統一等の美的秩序や構成要素を独自の表現(作品等)より感じ取れる。	デザイン＝「より良い生活のための提案」という理解の下、主にビジュアル表現におき、視覚的効果の提案として、色彩や形体、材料による創意工夫が、作品や制作姿勢、コメント等から感じ取れる。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察(授業への関心・意欲・態度) ・作品評価(個人評価含む) ・提出物の提出状況(作品コメントシート、作品等)・小テスト ・中間考査 ・期末考査 				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	デザインの基礎 -アイデアから表現へ- 1. デザインの概要と創造活動 (1)「自己PR」ビジュアル化 (2)幾何的な平面構成 (3)アイデアディベロップメント(アイデアの展開方法) ①モチーフの鉛筆描写→②ディフォルメーションワーク(誇張と省略)「線」→③ディフォルメーションワーク「配色効果」→④テクスチャワーク「質感表現」→⑤プレゼンテーション		<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン＝「より良い生活のための提案」を知る。 ・「自己PR」をビジュアル表現することにより表現とは何か、考えさせる。 ・「色と形」により視覚的効果を探求する。 ・有機的な形(自然物等)や無機的な形(人工物)を観察することから、感じ取った色や形のリズムやバランス、変化と統一等の美的秩序や構成要素を、「アイデア」に生かし「感性」と「悟性」によって展開する。また、その展開のプロセスをプレゼンテーションさせ、発表する力を養う。 		
2	2. カラーコーディネーション -色彩学の講義- (1)色の性質 (2)色と心理 (3)色を表し、伝える方法 (4)配色と色彩調和 (5)光から生まれる色 (6)色が見える仕組み (7)色の測定 (8)混色と色再現 (9)色と文化		<ul style="list-style-type: none"> ・色彩学、心理学、物理・化学的現象、美術・デザイン・文化史の観点から、「色とは何か」を学び、今後の課題等作品制作に生かせるよう、色彩に関する知識を養う。 		
3	3. テーマからの表現 -イメージのビジュアル化- イメージ平面構成 ①テーマ：「対比」〈例〉 ②テーマ：「変化」〈例〉 ③テーマ：「連動」〈例〉		<ul style="list-style-type: none"> ・1、2学期で学んだ内容を生かし、実践的なビジュアル表現を試みる。 ・テーマから発想したイメージをもとに視覚的効果の提案として独自の表現により平面画を制作する。 		
学習上の留意点	デザイン＝「より良い生活のための提案」をモットーに様々な事物に興味・関心を持ち、アイデアのバリエーションとして多くの知識を蓄えること。また、まずは自身の感覚で「美しい」と感じるものに触れ、なぜ美しいと感じるのかを思考すること。さらに、課外でも作品制作(ジャンル問わず)をすることを奨める。様々なことを経験し、感覚・知識・表現に磨きをかけてください。				

教科・科目	工業（繊維デザイン）・デザイン技術	単位数	2単位	履修学年(年次)	2年(年次)
目標	1年次のデザイン技術で習得した知識と技能を生かし、さらに能力を伸ばすと共に、自身の感覚をより作品づくりに応用できる力をつける。				
使用教材	教科書「デザイン技術(海文堂)」、デザインセット(デザイン画材用具一式)、各課題に使用する素材				
評価の観点・評価標準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)	
	デザイン＝「より良い生活のための提案」という観点から、色彩や形体が身近な環境に果たす役割や重要性に関心をもって、課題に生かそうとできる。	課題等のテーマから自身が発想した事物を色彩や形体、材料により、第三者、環境にどう印象や性格等を伝達できるか、自身の感覚、考えをもって、目的にあわせた構想ができる。	課題等のテーマ、目的や構想にあわせ、材料や用具の生かし方を工夫し、リズムやバランス、変化と統一等の美的秩序や構成要素を独自の表現(作品等)より感じ取れる。	デザイン＝「より良い生活のための提案」という理解の下、主題や目的を独自の平面・立体・空間造形効果をもって、創意工夫されている感じが作品や制作姿勢、コメント等から感じ取れる。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察(授業への関心・意欲・態度) ・レポートの評価 ・作品評価(個人評価含む) ・提出物の提出状況(作品コメントシート、作品等) 				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	平面・立体・空間デザイン演習 1. 平面デザイン演習 (1) テーマをもとにイメージデッサンをする テーマ(例)：任意の漢字2文字を組み合わせた言葉 <条件(例)>B2画面に鉛筆による表現/必ず「人物」を構成要素とし登場させる。 (2) (1)の作品をもとに色彩表現 「(1)」の作品から各自で新たな“テーマ”を導き出し、それをもとにポスターカラー、アクリルガッシュにより、色彩効果あふれるビジュアル表現を試みる。 (3) 講評		<ul style="list-style-type: none"> ・各自で任意に「ことば」を設定し、そこから発想したイメージをもとに、独自の感性を働かせ、視覚的効果の提案として、鉛筆による平面画を制作する。 ・鉛筆という身近で素朴な素材を、様々な使用方法にて展開させ、バリエーションのあるトーンやマチエール(質感、肌合い感)を探求する。 ・「イメージの展開」「モノクロームからカラーへ」など、様々な角度で作品を展開させていく力を身につける。 ・ポスターカラーやアクリルガッシュ等の水溶性絵の具を、様々な使用方法にて展開させ、配色の効果のみに固執するのではなく、様々なマチエールの効果も知り、平面表現を探求する。 ・コンセプト(制作意図)、プロセス(制作過程)を講評会で明快に発表できるようにする。 		
2	2. 立体デザイン演習 (1) 紙立体演習(数課題実施) (2) 紙素材の照明器具をつくる (3) 講評		<ul style="list-style-type: none"> ・ケント紙を使用。テーマに沿った立体構成を試みる。 ・「(1)」の紙立体演習で培った能力を生かし、ケント紙、画用紙、和紙等を使用し、見た目にも美しく、照明効果にも工夫を凝らした照明器具をつくる。 ・コンセプト、プロセスを講評会で明快に発表する。 		
3	3. 空間デザイン演習 課題<例> 自分の興味アトリエのある住宅を提案する ①人間工学、バリアフリーについて<講義> ②生活者の動線研究、平面図、立体図の作成 ③スチレンボードでの模型づくり ④講評		<ul style="list-style-type: none"> ・「衣食住」とデザインの関係を「住宅提案」というかたちで学ぶ。 ・外観の美しさのみにとらわれず、既存の住宅工法(モジュール)と形、生活空間へのカラーコーディネート等、身近にある「機能美」を知り、取り組みに生かしていく。動線研究も自分の行動から発見する。 ・空間感、スケール感を身に付ける。 ・コンセプト、プロセスを講評会で明快に発表する。 		
学習上の留意点	デザイン＝「より良い生活のための提案」をモットーに様々な事物に興味・関心を持ち、アイデアのバリエーションとして多くの知識を蓄えること。また、作品づくりも平面表現だけでなく立体・空間表現にもチャレンジする。幅の広い視野を持つことを望みます。				

教科・科目	工業（繊維デザイン）・デザイン技術	単位数	3単位	履修学年(年次)	3年(年次)
目標	1、2年次のデザイン技術で習得した知識と技能を生かし、より能力を伸ばすと共に、デザイン実践を視野に入れた作品づくりに応用できる力をつける。				
使用教材	教科書「デザイン技術(海文堂)」、デザインセット(デザイン画材用具一式)、各課題に使用する素材				
評価の観点・評価標準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)	
	デザイン＝「より良い生活のための提案」という観点から、平面・立体・空間表現が身近な環境に果たす役割や重要性に関心がもて、課題に生かそうとできる。	課題等のテーマから自身が発想した事物を平面・立体・空間表現により、第三者、環境にどう印象や性格等を伝達できるか、自身の感覚、考えをもって、目的にあわせた構想ができる。	課題等のテーマ、目的や構想にあわせ、材料や用具の生かし方を工夫し、リズムやバランス、変化と統一等の美的秩序や構成要素を独自の表現(作品等)より感じ取れる。	デザイン＝「より良い生活のための提案」という理解の下、主題や目的を独自の平面・立体・空間造形効果をもって、創意工夫されている感じが作品や制作姿勢、コメント等から感じ取れる。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察(授業への関心・意欲・態度) ・作品評価(個人評価含む) ・提出物の提出状況(作品コメントシート、作品等) ・レポートの評価 				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	<ul style="list-style-type: none"> ●感覚表現Ⅰ (1)課題<例> 「視点」をテーマに、視覚的効果あふれるビジュアル作品をつくる。 (2)講評 ●感覚表現Ⅱ (1)課題<例> 「○○○のカタチ」をテーマに美しいフォルムの立体をつくる。 (2)講評 		<ul style="list-style-type: none"> ・テーマのもとに、独自の感性を働かせ、視覚的效果(感覚表現Ⅰ)・立体的効果(感覚表現Ⅱ)の提案として、各自の目的・イメージにあわせ、自由に素材選択、表現させ、独創性あるデザイン作品づくりを目指す。 ・エスキース用紙(コンセプト、素材、制作過程の計画、図面等の概要を記録したもの)の作成をさせ、デザインの仕事のプロセス(過程)の重要性を知る。 ・エスキースをもとにプレゼンテーションすることを含めた講評会を実施。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ●デザイン思考による作品づくり (1)課題<例> 平面構成 各自の自由な発想をもとに「ツール(道具)」を提案する。 GI計画におけるVIデザインの提案(グループワーク) (2)講評 ●自由制作(3学期に続く) 課題: デザインのモットー＝「より良い生活のための提案」を理解の上、各自の自由な発想をもとに、任意にテーマを設定し、独創性あふれるデザイン作品をつくる 		<ul style="list-style-type: none"> ・独自の感性を働かせ、平面、立体、空間、スタイル問わず、テーマ(自由制作時は任意に設定)に対する各自の提案として、それぞれの目的・イメージにあわせ、自由に素材選択、表現させ、独創性あるデザイン作品づくりを目指す。 ・エスキース用紙の作成をさせ、計画的な制作ができるようにする。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ●自由制作(2学期からの続き) 課題: デザインのモットー＝「より良い生活のための提案」を理解の上、各自の自由な発想をもとに、任意にテーマを設定し、独創性あふれるデザイン作品をつくる ●まとめ(テーマ:「デザインとは何か?」…レポート作成) 		<ul style="list-style-type: none"> ・独自の感性を働かせ、平面、立体、空間、スタイル問わず、テーマ(自由制作時は任意に設定)に対する各自の提案として、それぞれの目的・イメージにあわせ、自由に素材選択、表現させ、独創性あるデザイン作品づくりを目指す。 ・エスキース用紙の作成をさせ、計画的な制作ができるようにする。 ・今までのデザイン技術での取り組みを振り返り、各自の観点で「デザインの可能性」を探り、文章としてその内容を提案する。 		
学習上の留意点	デザイン＝「より良い生活のための提案」をモットーに、ジャンルを超えて様々な事物が融合し合う。そこから、特に自分自身が「デザイン」を感じるものは何か?探してみよう。				

教科・科目	工業（繊維デザイン）・デザイン技術	単位数	3単位	履修学年(年次)	3年(年次)
目標	1、2年次のデザイン技術で習得した知識と技能を生かし、より能力を伸ばすと共に、デザイン実践を視野に入れた作品づくりに応用できる力をつける。				
使用教材	教科書「デザイン技術(海文堂)」、デザインセット(デザイン画材用具一式)、各課題に使用する素材				
評価の観点・評価標準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(技能・表現)	(知識・理解)	
	デザイン＝「より良い生活のための提案」という観点から、平面・立体・空間表現が身近な環境に果たす役割や重要性に関心がもて、課題に生かそうとできる。	課題等のテーマから自身が発想した事物を平面・立体・空間表現により、第三者、環境にどう印象や性格等を伝達できるか、自身の感覚、考えをもって、目的にあわせた構想ができる。	課題等のテーマ、目的や構想にあわせ、材料や用具の生かし方を工夫し、リズムやバランス、変化と統一等の美的秩序や構成要素を独自の表現(作品等)より感じ取れる。	デザイン＝「より良い生活のための提案」という理解の下、主題や目的を独自の平面・立体・空間造形効果をもって、創意工夫されている感じが作品や制作姿勢、コメント等から感じ取れる。	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察(授業への関心・意欲・態度) ・作品評価(個人評価含む) ・提出物の提出状況(作品コメントシート、作品等) ・レポートの評価 				
学期	学習内容		学習のねらい		
1	<ul style="list-style-type: none"> ●感覚表現Ⅰ (1)課題<例> 「視点」をテーマに、視覚的効果あふれるビジュアル作品をつくる。 (2)講評 ●感覚表現Ⅱ (1)課題<例> 「〇〇〇のカタチ」をテーマに美しいフォルムの立体をつくる。 (2)講評 		<ul style="list-style-type: none"> ・テーマのもとに、独自の感性を働かせ、視覚的效果(感覚表現Ⅰ)・立体的効果(感覚表現Ⅱ)の提案として、各自の目的・イメージにあわせ、自由に素材選択、表現させ、独創性あるデザイン作品づくりを目指す。 ・エスキース用紙(コンセプト、素材、制作過程の計画、図面等の概要を記録したもの)の作成をさせ、デザインの仕事のプロセス(過程)の重要性を知る。 ・エスキースをもとにプレゼンテーションすることを含めた講評会を実施。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ●デザイン思考による作品づくり (1)課題<例> 平面構成 各自の自由な発想をもとに「ツール(道具)」を提案する。 GI計画におけるVIデザインの提案(グループワーク) (2)講評 ●自由制作(3学期に続く) 課題: デザインのモットー＝「より良い生活のための提案」を理解の上、各自の自由な発想をもとに、任意にテーマを設定し、独創性あふれるデザイン作品をつくる 		<ul style="list-style-type: none"> ・独自の感性を働かせ、平面、立体、空間、スタイル問わず、テーマ(自由制作時は任意に設定)に対する各自の提案として、それぞれの目的・イメージにあわせ、自由に素材選択、表現させ、独創性あるデザイン作品づくりを目指す。 ・エスキース用紙の作成をさせ、計画的な制作ができるようにする。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ●自由制作(2学期からの続き) 課題: デザインのモットー＝「より良い生活のための提案」を理解の上、各自の自由な発想をもとに、任意にテーマを設定し、独創性あふれるデザイン作品をつくる ●まとめ(テーマ:「デザインとは何か?」…レポート作成) 		<ul style="list-style-type: none"> ・独自の感性を働かせ、平面、立体、空間、スタイル問わず、テーマ(自由制作時は任意に設定)に対する各自の提案として、それぞれの目的・イメージにあわせ、自由に素材選択、表現させ、独創性あるデザイン作品づくりを目指す。 ・エスキース用紙の作成をさせ、計画的な制作ができるようにする。 ・今までのデザイン技術での取り組みを振り返り、各自の観点で「デザインの可能性」を探り、文章としてその内容を提案する。 		
学習上の留意点	デザイン＝「より良い生活のための提案」をモットーに、ジャンルを超えて様々な事物が融合し合う。そこから、特に自分自身が「デザイン」を感じるものは何か?探してみよう。				